

(8) 一般機械工業

15 / 14 16 / 15 伸び率 10% 以上 ● 伸び率 0 ~ 10%
: 天気図マーク; 伸び率 0 ~ 10% 伸び率 10% 以下

・建設土木機械

1 . 企業経営動向 (需要、生産・設備稼働、企業収益、財務)

(1) 需要

現状及びその要因

平成 1 5 年度の出荷額 (出典 : (社) 日本建設機械工業会統計) は 1 兆 4 , 2 2 4 億円、対前年度比 2 1 . 2 % 増と昨年に引き続き増加。内需については、中古車の海外流出等により国内保有台数が大きく減少したこと、更新時期を越えた機械の入れ替え需要、排ガス対応機需要等により、6 , 7 7 7 億円、対前年度比 1 1 . 1 % 増と堅調に推移、一方、外需については、北米、中国向けを中心に好調で、7 , 4 4 7 億円、対前年度比 3 2 . 2 % 増と 3 年連続の増加となった。

今後の見通し

(社) 日本建設機械工業会によると、平成 1 6 年度出荷額 (補給部品を含まず) は対前年度比 1 0 % 増と 3 年連続前年度増加する見込んでいる。内・外需別には以下のとおり。

内需 : 上期、下期とも前年同様の市場環境が継続し、加えて民間設備投資が増加が予想されるため、上期は前年同期比 6 % 増、下期は同 4 % 増と予測しており、年度合計では前年同期比 5 % 増加となると見込んでいる。

外需 : 上期は海外全地域向けに好調で、輸出金額の大きい油圧ショベルを中心に需要増が見込まれており、上期は前年同期比 1 9 % 増、下期は同 1 0 % 増と予測。年度合計では前年同期比 1 4 % 増加の見込み。

(2) 生産・在庫

平成 1 5 年度の生産額 (出典 : 経済産業省生産動態統計) は、1 1 , 4 9 5 億円と対前年度比 2 6 . 9 % の増加となった。

在庫 (出典 : 経済産業省生産動態統計) は、減少傾向にある。

(3) 企業収益

平成 1 5 年度は、公共工事は減少したものの、中古車の海外流出等による国内の需要増、更新時期を越えた機械の入れ替え需要、排ガス対応機の需要等により国内市場は反転、さらには北米・中国市場を中心として輸出が大幅に伸びたため、各社とも軒並み前年の実績を上回り、大手 5 社で見ても、全ての企業が増収となり、概ね堅調に推移した。

2．設備投資動向（15年度見込み、16年度計画）

(1)平成15年度実績見込み

平成15年度は、調査企業6社合計で151億円となった。これは101億円であった平成14年度に比べ49.7%増である。

目的別では、生産能力増強投資（26%）が大きく進み、また合理化投資（21%）のウェイトが高かった。

(2)平成16年度計画

平成16年度計画は、調査企業6社合計で227億円と計画されている。これは151億円であった平成15年度に比べ50.8%増である。

目的別では、生産能力増強投資、合理化投資を中心に引き続き設備投資が進められていく見込み。

3．長期資金調達・運用動向（長期資金運用動向、長期資金調達動向）

(1)長期資金運用動向

平成15年度は平成14年度に比べ、設備投資資金が3.9%減少したものの投融資額は大幅に増加した。一方、短期資金への振り替えは減少した。

平成16年度計画は平成15年度に比べ、設備投資資金が増加予定であるものの、投融資額は減少し、短期資金から振り替えられる額は減少する計画になっている。

(2)長期資金調達動向

平成15年度は、株式による資金調達が増加し、社債、借入金による資金調達が大幅に減少した。

平成16年度計画では、内部資金による資金調達が増加、社債及び借入金による資金調達は減少する計画となっている。